

「不動産×コンテンツ」 新たな事業領域へ

サステナブルインフラのいちごでは現在、コンテンツビジネスを展開。2019年4月に「いちごアニメーション」という子会社を設立し、一見無関係ともみえる「不動産事業」との相乗効果を図っている。

いちご(2337・プライム)

いちごアニメーション
中西 穰 社長



「いちごアニメーション」 設立

2021年2月に制作され、テレビやネット配信されたアニメ「ぶらどらぶ」「攻殻機動隊」などの人気作品で知られる押井守氏が手掛けた新作ということで大きな話題となった。同アニメに出資しているのが、いちごアニメーションだ。現在のアニメ作品は、複数の出資者(社)からなる製作委員会方式を採用することが多く、収益は出資額に



▶同社が出資したアニメ「ぶらどらぶ」

応じて分配するスキームが一般的だ。しかし同作品は、同社が単独出資した。

同社はいちごグループの主力事業の一つ「心築(しんちく)」事業の発展形と位置付けている。

「心築」事業とは、「心で築く、心を築く」を信条に、不動産技術やノウハウをもとに建物を長寿命化し、不動産の価値向上を図る。ストックを有効活用するため、省資源かつサステナブルに寄与する社会的意義の高い事業としている。

いちごグループが取得した既存建物をハードとソフトの両面からバリューアップし、外部やリートに売却または長期保有する仕組み。リーマンショック以降、独自のビジネスモデルを確立し、現在では営業利益の6割以上を占めている。

同社の中西穰社長は話す。

「当社の『心築』では、建物の貸主という役割だけではなく、街を活性化する役割を担っていきたいと考えております。具体的に、コンテンツ

製作への投資などをきっかけに、それを所有する不動産、街、地域と紐づけたりするすることで、その街を訪れる方々や、その地域の事業者様との繋がりを広げ、お互いの発展のために一緒に街を盛り上げていく事を目指しています。いちごグループでは、かねてからこの『心築』をより分かりやすく形にする方法を模索していました。そこでコンテンツをキーとすることで、不動産と何かケミストリーが生まれるのではと考えたのです。たまたま押井守監督とのご縁があり、アニメをツールとした面白い取り組みが展開できるのでは、と支援したわけです」

そのため同社は単に製作支援だけでなく、マーチャンダイズ等の権利も全て獲得した。

イベントを実施し 地域活性化の一助に

いちごグループは、JR秋葉原駅から徒歩4分の場所に地上6階・地下2階の「AKIBAカルチャーズZONE」という商業ビルを所有している。同ビルは、

フィギュア等のアニメグッズ、コスプレ、アイドルイベントなど、文字通り現在の秋葉原カルチャーが体現できる施設となっている。

同社はこの施設内に自社運営店舗区画を確保し、「ぶらどらぶ」に関するイベントのみならず、アニメ関連を中心に多数の企画、イベントを実施し、多くの来館者を集めることに成功した。同アニメへの投資により、アニメ業界の権利を理清し、それを活用することで、こうした二次的活用やアニメ業界とのコネクションを不動産運営に活かす事が可能になった。

「当社は、『AKIBAカルチャーズZONE』とアニメや他のコンテンツと結びつけることで、不動産の発信力を高めていくとともに、『いちご』という会社の認知度を高めていきたい」(同氏)

同社の狙いはアニメを切り口に施設の集客力を高



▲「AKIBAカルチャーズZONE」

め、建物の価値向上、ひいては秋葉原という街の活性化の一助にしたいといううもの。この春には同施設で人気アニメ「ガンダム」に関するイベントも企画している。

「当社はアニメーションという名前がついています。様々なエンターテインメントに関するコンテンツと不動産を結びつけることで、新しい価値を生み出し、その地域を盛り上げることが目的にしているのです。今回の秋葉原のケースはその試金石となります」(同氏)

今後は、『心築』というテーマをより分かりやすく具現化するため、コンテンツの活用をアニメに限らず積極的に取り組み、不動産と、その街の発信力を高めていきたいという。